

2026年(令和8年)5月5日(火曜日)



長年にわたり、秋田大学でものづくりの面白さを追求してきた。大館を訪れるのは今回が初めてで、「これほどまでに地元から応援され、支えられている学校と知り、驚いている。地域に向けてエンジニアの楽しさを伝えていきたい」と力強く語る。

地域に開かれた学校に

東北能開大秋田校校長

奥山 栄樹^{さん}(65)

山形県出身。東北大学工学部精密工学科を卒業後、同大学院工学研究科を修了し、博士号(工学)を取得。秋田大学で助教、教授などを歴任した。34歳の時には文部科学省の在外研究員として10カ月間、英国のウォーリック大学に滞在し、研究に専念した。専門は機械の精密測定。

エンジニアとして重要なのは「どうすればできるかを考え、できない理由を並べないこと」。事故を起こさず不良品を生まないために、大学では基本を大切にすることを説いてきた。



秋田校について「学生たちは明確な目標を持っており、ものづくりへの思いが強い」と印象を語る。「エンジニアの楽しさを伝えるためにも、学生が作ったワクワクするような作品を展示し、地域に開かれた学校にしていきたい」と先を見据えた。単身赴任中で、週末は妻と次男が暮らす秋田市の自宅まで車を走らせる。趣味は学生時代に熱中したギター演奏のほか、将棋や植物園巡り。